

ボーイスカウトの環境への取り組み

世界スカウト環境プログラム



「人と自然界がきれいな空気と水を備えていること」を理解する。



「自生の動植物が生きていくための十分な生息地があること」を理解する。



「人と環境に対する有害物質の危険性を最小限にすること」を理解する。



「環境に対して最も適切な行動を実践すること」を理解する。



「環境被害や自然災害に備えること」を理解する。

カブスカウト課程（小2～小5）



「自然保護」

- ・「下水溝、川や池の周りのごみを取り除き、きれいにする。」
- ・「自然環境調査に参加する」



「自然観察官」

- ・「自然に生息する動物／植物から1つを選び、その内の5種類を観察してその様子や特徴を調べ記録する。」



「災害救助員」

- ・「災害が起きたときの集合場所などを、家族で相談し決めておく」
- ・「災害時に緊急に持ち出す必要なものを一つの荷物にまとめて準備しておく」

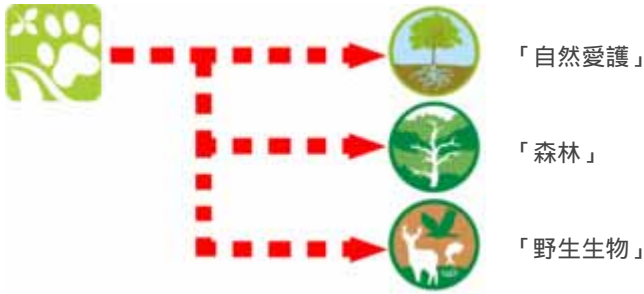
ボーイスカウト課程（小5～中3）



「環境保護」

- ・水または酸素の循環について知り、河川または大気汚染とその影響を説明する。

- ・環境指標生物とは何かを知り、実際に調査をする。
- ・住んでいる地域のおもな公害の種類を調べ、そのうち1つの原因について説明する。
- ・わずかな熱エネルギー、または太陽エネルギーを利用して調理することのできる器具を作成し、キャンプで使う。
- ・洗剤・石鹼類について環境に優しいものを知り、家庭および野外活動で使用する。
- ・環境行動スロ・ガンを説明する。



「自然愛護」

- ・ キャンピングやハイキングをするとき、自然を大切にするために守らなければならない事柄を説明する。
- ・ 自然愛護について地域の環境改善に役立つことを計画する。
- ・ 自然愛護を目的とした活動に参加する。
- ・ ハイキング等で異なる地点3箇所の土、または水を、そこに見られる生物等を含めて観察し、比較する。
- ・ 新聞等の報道の中から「自然愛護」に関する記事を一つ選び概略をまとめる。
- ・ 『WWF』の活動について調べる。

「森林」

- ・ 森林と人の生活が結び付いている点を挙げる。
- ・ ハイキングで森林の木の種類を調べ植生地図を作り、できれば木の実、落ち葉、土壌のサンプルを添付する。
- ・ 樹木を5種類以上見分け、特徴を述べる。
- ・ 森林保護、管理に関わる機関、団体、個人から活動目的、内容等を聞き、できれば活動を体験し、自分たちにできることを考え発表する。
- ・ 森林に生息する生物の食物連鎖を説明する。
- ・ 森林に害を与えるものについて調べ、その原因と、害を予防、または防止するためにできることを説明する。

「野生生物」

- ・ 野生生物保護の法規について調べ、捕獲・飼育が禁止されている鳥獣類を知る。
- ・ 野生生物を観察する場合に気をつけなければならないことを説明する。
- ・ 身近なところで野生生物を観察するプログラムを企画し、班または隊集会にて実施する。
- ・ 日本における絶滅危惧種について調べ、保護するためにどのような対策がとられているかを説明する。
- ・ 双眼鏡（単眼鏡）の正しい使用方法を知り、野生生物の観察を行う。
- ・ 自分の住んでいる県の『県の鳥』と『身近な鳥、または渡り鳥』5種類以上の名称、形態、習性を説明する。



「防災」

- ・ 災害に遭った場合の心構えを知り、防災意識が高まるように家族で話し合いをする。
- ・ 災害に遭遇した場合の避難方法について説明する。
- ・ 消火器の種類と使用方法を説明する。
- ・ ガス漏れを発見した場合の処置方法について、正しく知る。
- ・ 消防署等への通報の仕方を実演する。
- ・ 防火または防災活動に参加をする。

ボーイスカウト兵庫連盟阪神さくら地区 夙川スカウト育成会 理事長 山田明良

平成24年7月20日

GB 苦楽園地区 森づくり計画書

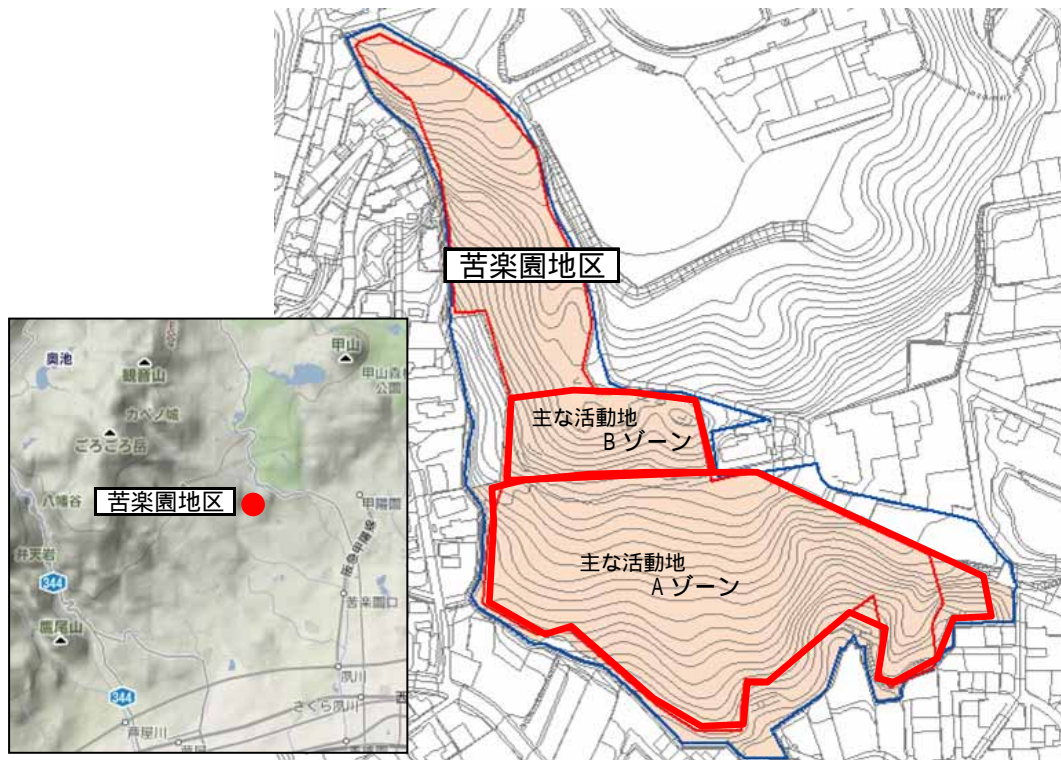
提出日 (平成 21 年 6 月 23 日)

団体名	夙川ボーイスカウト育成会		
団体人数	284名		
代表者名	理事長 山田 明 良		
連絡先	住所		電話
	E-mail		FAX

1. 地区概要	地区	図 - 1 参照	写真	写真 - 1 参照
	面積	約 6.3ha		
	植生・その他 地区概要	<p>周囲を住宅地に囲まれた斜面であり、比較的緩傾斜な立地である。主な植生として、コナラ-アベマキ群集、モウソウチク-マダケ群落、スギ-ヒノキ群落が広がる。コナラ-アベマキ群集は、典型的なコナラ-アベマキ群集ではなく、アカマツ-モチツツジ群落と混交している。さらに、低木層にヒノキが植栽されているタイプが分布している。スギ-ヒノキ群落は樹冠がうっぺいし、階層構造が発達しておらず、草本層も衰退している。</p>		
2. 整備方針	<p>樹林整備方針</p> <p>コナラ-アベマキ群集の内、低木層にヒノキが植栽されている箇所は不良林分であり、早急にヒノキを伐採する必要がある。伐採後、植栽は行わない。林床にネザサが優占するタイプではネザサの刈り取りを行う。それ以外のコナラ-アベマキ群集は現状の維持を目指し、低木層にヒサカキやヤブツバキなどの常緑広葉樹が優占しないよう除伐を行うことが望ましい。</p> <p>モウソウチク-マダケ群落は、タケ類を皆伐し、コナラ-アベマキ群集構成種を植栽する。整備後も再生したタケ類を伐採する必要がある。</p> <p>スギ-ヒノキ群落は、間伐等を行い、樹林内の光環境の改善し、コナラ-アベマキ群集構成種を植栽することにより針広混交林を目指す。住宅地との境界部は、5m 程度の幅で伐採し低木を植栽する。</p> <p>住宅地と隣接しているため、定期的に点検巡視を行い、枝打ちや伐採等の対策を必要に応じて実施する。</p>			

<p>3 . 活動内容 (主な活動地)</p>	<p>図 1 の赤線で囲まれた範囲を主な活動地 (愛称「健児の森」) として、以下の活動を実施します。</p> <p>Aゾーン</p> <p>つたの除去・枯損木の処理</p> <p>必要に応じ、樹木の健全な生育を阻害するつる性植物の切り取りや、枯損木の処理を行う。</p> <p>タケ類の伐採</p> <p>モウソウチク-マダケ群落において、タケ類の手入れがされないと、他の植物を被圧し、下層植生が貧弱となるため、タケ類を間伐するとともに、木本のつる性植物や枯損木を伐採し、適切な管理を行う。</p> <p>また、同群落の分布拡大を防止し、周辺からの落葉広葉樹の侵入を促すため、周縁部については、タケ類や侵入を阻害する常緑樹を伐採する。なお、モウソウチク等のタケ類は地上部の伐採後も、地下茎により、地上部を容易に再生することから、頻繁に地上部の伐採を行う。少なくとも年1回は伐採する。</p> <p>樹林内の光環境の改善</p> <p>コナラ - アベマキ群集においては、下層の光環境の改善のために常緑樹の除伐やネザサ等の刈り取りを行う。</p> <p>地域の人々が利用できる散策路の整備</p> <p>住宅地との境界部分の巡回</p> <p>巡回を行い、倒木による危険が予測される樹木を確認した場合、六甲砂防事務所に連絡を入れる。</p> <p>Bゾーン</p> <p>樹林内の光環境の改善</p> <p>下層の光環境の改善のために常緑樹の除伐やネザサ等の刈り取りを行う。また、トゲがあり、林内の移動に障害となる恐れのある植物についても除伐する。</p> <p>植樹・保育活動を通じて子供たちが自然環境を学ぶ場とする</p> <p>子供たちが中心となって、植樹や、下草刈り等の保育活動を行い、活動を通じて自然環境を学ぶ。</p>
<p>4 . その他</p>	<p>(支援が必要な内容、希望等)</p> <p>植林の方法や、伐採木・保存木の見極め方に関するアドバイス 素人に対応できない作業を専門家に整備していただく</p>

苦楽園地区位置図 (図 - 1)



苦楽園地区現状 (写真 - 1)



林内 (コナラ林) の状況



竹林の状況



Aゾーンの南端の一部に断崖



Bゾーンはやせた土壌が広がる